

ただし、

$$\mathbf{a}_j = \begin{pmatrix} a_{1j} \\ a_{2j} \\ \vdots \\ a_{nj} \end{pmatrix}, \quad \mathbf{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ \vdots \\ 0 \end{pmatrix}$$

\mathbf{e}_1 のかわりに第 i 行のみ 1 で他は 0 の縦ベクトルを \mathbf{e}_i として方程式

$$x_1 \mathbf{a}_1 + x_2 \mathbf{a}_2 + \dots + x_n \mathbf{a}_n = \mathbf{e}_i \quad (1)$$

を考えると、クラームルの公式から

$$x_j = \frac{|[\mathbf{a}_1, \dots, \mathbf{a}_{j-1}, \mathbf{e}_i, \dots, \mathbf{a}_n]|}{|A|} = (-1)^{i+j} \frac{|A_{ij}|}{|A|}$$

となっている。 i に対する方程式 (1) の解を

$$\mathbf{x}_i = \begin{pmatrix} x_{1i} \\ x_{2i} \\ \vdots \\ x_{ni} \end{pmatrix}$$

とかく。つまり、

$$[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n] \mathbf{x}_i = \mathbf{e}_i$$

がそれぞれの i について成り立っているとすると、これを並べて書いて

$$\begin{aligned} & [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n] [\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n] \\ &= [\mathbf{e}_1, \mathbf{e}_2, \dots, \mathbf{e}_n] = E_n \end{aligned}$$

が成り立つので、

$$X = [\mathbf{x}_1, \mathbf{x}_2, \dots, \mathbf{x}_n] = \begin{pmatrix} x_{11} & \dots & x_{1n} \\ \vdots & & \vdots \\ x_{n1} & \dots & x_{nn} \end{pmatrix}$$

は A の逆行列である事が分かる。

クラームルの公式からこのようにして逆行列の公式を導く事もできる。

練習 9.1 次の行列の行列式を計算し、それが正則な行列であるか否かを判定せよ。

$$(1) A = \begin{pmatrix} 2 & -1 & 0 & 0 \\ -1 & 2 & -1 & 0 \\ 0 & -1 & 2 & -1 \\ 0 & 0 & -1 & 1 \end{pmatrix} \quad (2) B = \begin{pmatrix} 1 & -2 & 5 & 0 \\ -3 & 1 & 2 & -3 \\ 2 & -1 & 1 & 3 \\ 4 & -2 & -3 & 1 \end{pmatrix}$$

練習 9.2 次の行列の逆行列を求めよ

$$C = \begin{pmatrix} 1 & -1 & 0 \\ 1 & 1 & -1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$